

蓬萊町だより

第十七号
昭和62年7月31日
発行者 蓬萊町会
編集者 文化部

蓬萊町界限(その十四)

蓬萊町の電車(Ⅲ)

林 順 信

複雑な市電の系統番号

東京市電や都電のことは、やや専門的すぎて複雑なきらいがあるが、今のうちに整理しておかないと解らなくなるので、暫らくお付き合いねがいたい。蓬萊町電車停留場が誕生した大正四年から、大正十一年の平和博覧会が開かれるまでは、果嶋車庫の番号6番という菱形の板を電車の側面にとりつけて電車が走っていた。

第6系統 駒込橋発須田町〜小川町〜三田間

この電車の経路は、関東大震災以前のものだから、駒込橋から吉祥寺前、本郷肴町、蓬萊町、大学正門前、本郷三丁目を過ぎて、松住町(外神田二丁目)からは、昌平橋を渡って須田町、小川町というところが、現在の須田町の交差点のつもりでいると全く見当がつかない。神田明神の大鳥居の前の明神坂を下りたらすぐ左へ曲

って(ヤマギワ電気のある旅籠町へ行く道)また、すぐ四辻を右(南)に曲がって昌平橋を越える道を通っていた。(この道はついこの間まで都電の代替バス5-9系統が通っていた)そして昌平橋を越えたら現在の消防署と高架鉄道の赤煉瓦の壁との間の交通博物館への道を電車が進み、交通博物館前の四辻を今度は右折して、まつやという生そば屋の前の狭い道を通って小川町に出て、左折して神田橋、大手町、日比谷、三田へと往復していた。

関東大震災前の須田町といえば、広瀬中佐と杉野兵曹長のとてつもなくでっかい銅像が建っていた、万世橋ステーション前の四辻であった。

『東京地理教育 電車唱歌』の中に「乗り換えしげき須田町や、昌平橋を渡りゆく」というくだりがある。いま交通博物館となっているところに戦時中昭和十八年まで万世橋駅があった、四辻の角に黒々とした広瀬中佐の銅像が建っていた、あの銅像は終戦直後どこかへ片付けられて行方不明になっている。あの狭い十字路が有名な須田町の交差点で五方面から電車が集っては散って行った。今そこに立ってもその情景がどうしても信じられない程ではあるが、確かに場所は正しいのだ。

この車庫単位の番号が、大正十一年には、複雑な行き先きによってそれぞれ区別された三桁の番号になった。東京見物に来た人たちのため

にそうした筈のものであった。
蓬萊町電停にやって来ていたのは、左の三系統がやって来ていた。

第182系統 駒込橋〜日比谷間

第183系統 肴町〜本石町〜新橋駅間

第184系統 駒込橋〜東京市役所前間

この系統番号と經由地は、大きな横長の板に記されて、やはりサガ(サイド・ボード)という風に、電車の横にとり付けられた。

右の第182系統は前述の第6系統時代と全く同じコースである。第183系統は、須田町以南は、ついこの間までと同じく神田、日本橋を通って銀座、新橋へと中央通りを往復していた。そして第184系統は、駒込橋、蓬萊町、本郷三丁目、須田町から本石町(室町三丁目)を右折して新常盤橋から東京駅前を通って、東京市役所前まで往復していた。東京平和博覧会に来た地方の見物人にわかり易い様にと三桁の番号を配したのだろうが、これは余りにも複雑な机上論から出たもので、東京の人間でも難解だったという。

大正十二年九月一日に、関東大震災が起こったので、この三桁の系統番号は自然消滅となった。関東大震災は下町を中心に車庫や電車に大被害を与えた。全車両一九〇五両の四一%にあたる八八九両が灰燼と帰した。東京市内の変電所が大被害を受けて市電は

(1)

九月六日になって根津を通る神明町車庫と上野三橋（上野公園）間に、東京全市の皮切りとして電車運転が再開された。翌大正十三年六月十二日に全部の復旧がなされるまで多くの費用と日数を要した、九月十六日までには罹災者や見舞客のために、乗車賃は無料だったから、用のない者までが電車に押しかけて満員となり、力の弱い婦女子は市電に乗ることはできなかった。

☒急行電車は蓬萊町電停を通過

ところが震災の年十二年十二月三十日から、急行電車の運転が行われた。震災後の電車台数の不足と、電力節約ということで、一日の利用客四千人以下の停留場、停留場間隔六百間以内という条件のもとで、全三百五十二停留場中の百四十二停留場が、朝と夕方の通勤時に急行のとまらない停留場となった。

わが蓬萊町停留場は北のお隣りに本郷有町という大きな停留場があるので、残念ながら急行の停まらない停留場となった。この急行電車は、普通電車があるわけでなく、季節によって午後六時半（六時、七時）〜午前九時半（九時）〜十時）と午後三時半（四時、三時）〜午後七時半（八時、七時）の間は、百四十二の停留場には、掲示板を掲げて一切の電車は停まらず、電車の乗降口上部へ赤文字で「急行」と書いた札を掲げて走って行った。しかし、お上のやるこのやり方には不平不満が浴びせられた。誰しも遊び

に行くのではなく、ラッシュ時には通勤通学のため市電に乗るわけだし、急行電車は別に急行料金を支払った乗客が乗っているわけでもないし、結局市電へ乗らなければならぬ人数が、隣りの電停まで歩かされて乗車するわけだから、宥町とか追分町での乗降人数が増加するわけだから大した効果は発せられず、大正十五年四月三十日を最後として急行電車は廃止となった。駒込橋から東京市役所前間で、急行運転で僅か五分の短縮となったというから、よくも二年と四か月もの間バカげたことをやっていたものである。

しかし、この悪い実績（？）が、後で述べるが、再び第二次大戦中に持ち上がって来るわけであった。

この関東大震災後から数年間は、市電に系統番号が掲出されることがない空白の時代となっていた。昭和三年四月から始まった、今上天皇の御大典記念の大博覧会に合わせて、始めて、電車の正面に系統番号が掲出されることになり、あの懐かしい菱形の白い板の中に数字が、行先別に記入される時代が到来したのであった。

今まで何度も述べて来たように、博覧会が上野公園で開かれる度毎に、市内電車の上は何等かの変化が生じて来たことは興味あることである。例えば大正三年の大正大博覧会から始めて市電の横に番号をとりつけてから約十五年間、やっと電車の正面に系統番号が取りつけられるまで試行錯誤をくり返して来たのだから、今か

ら考えると、だめなお上であり利用者であったわけである。

現在だって、「国電」に代わる名前が「市電」だなんて、なじめない名前が突如として出て来るわけで、日本人はまだまだ、だめなんだなあと思わざるを得ないのである。

（次回は都電を一回休んで、駒込館の巻です）

町会活動の概要

昭和62年3月から6月中旬まで

総務部

4月7日 昭和61年度、総会準備会開催

6月27日 昭和61年度定時総会開催

当町会の総会を開催し、昭和61年度の事業報告及び決算報告、昭和62年度事業計画案及び事業予算案を諮り、慎重なる審議を経て承認いたしました事を本号をもってお知らせいたします。

なお、昭和61年度決算報告及び昭和62年度事業予算は、本号の末頁に掲載してございますので、ご参照下さい。

防火防災部

5月6日 本郷防火協会総会に出席

5月24日 防火リーダー講習会に参加、文京区

役所主催 六中校庭に於いて

交 通 部

5月7日 駒込交通安全協会総会に出席

婦 人 部

3月8日 婦人防火委員研修会に出席

3月18日 ごみ減量協力会総会に出席

4月3日 日赤献血車の町内来場に伴い婦人部が手伝いを行いました。

6月4日 廃品回収による売却積み立て金、日赤文京支部へ寄付
一金 二十万円

この金円は、日ごろ婦人部が行なっております廃品回収事業の積み立て金でございます。昭和58年の三宅島災害に見舞金を出して以来、今日までに積み立てて置きました金円が二十万円に達しましたので、寄付をさせて頂きました。

これは一重に町内の皆様方のご厚志の賜物と感謝申し上げます。今後とも宜しくご協力をお願いいたします。

文 化 部

3月30日 新入学児童の皆さんへ町会よりささやかながらお祝い品をお贈りいたしました。本年度小学校へ入学されたお子様方が雄々しくこ

成長されるよう祈念申し上げます。お名前は次のとおりでございます。

荒田悠士様、須藤彰広様、山田雄太様、関 隆司様、久貝友一様、池上佳名子様、西田倫子様、五十嵐理恵様、宇名良美様

青 年 部

恒例「盆おどり」のお知らせ

来る八月二十三日(日)二十四日(月)二十五日(火)の三日日間、大観音境内に於いて、盛り沢山の趣向を凝らして賑やかにもおしたいと思案中です。

夏の夜のひととき、皆さんお誘い合わせのうえ、ぜひご参加下さい。

赴 報

当町内にお住まいの方で三月から六月にご逝去された方々のご氏名は左記のとおりでございます。謹んでお悔やみ申し上げご冥福をお祈りいたします。

今堀惣四郎様、水谷たみ様、藤井ミツ様、山田末治様

編 集 部

本年はカラ梅雨のため、これからの暑さに向かって水が大変心配になってきましたが、節水

に心がけて元気に頑張りました。編集委員

小林音吉、竹中一馬、猪熊良晃、高橋一郎、翁 松夫、池田 暉、

地下鉄七号線の計画概要図が発表されました。蓬萊町近辺を図面から取り出しますと左の通りです。

◎東大前駅 - 東大農学部前付近 ◎本駒込駅 - 駒本小学校前付近



昭和61年度決算報告書

昭和61年4月1日～昭和62年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	0		総会費	150,650	会場費及茶菓子代
町会費	1,267,750		会議費	59,375	役員会々場費茶菓子代
補助金	167,430	区より	総務費	376,620	部会及研究等に
寄付金	68,000		渉外費	105,650	関係団体等
雑収入	227,680		備品費	44,000	維持費, 購入費
銀行利息	224		事務費	72,525	
			通信・交通	59,460	
			電気代	62,419	防犯灯, 維持費含む
			防火防災部	16,900	防火訓練費他
			防犯部	53,480	防犯訓練費他
			交通部	60,030	交通安全運動費
			衛生部	0	
			文化部	135,600	蓬萊町だより, 成人, 新入学祝
			婦人部	135,550	敬老費他
			青年部	200,000	部費
			慶弔費	18,000	
			消耗品費	52,780	
			返金	130,000	防災積立金へ
			繰越金	45	防災
合計	1,733,084		合計	1,733,084	

昭和62年6月27日

収支決算上記の通り報告します。

町会長 久貝 貫一

会計 川西 正造

上記の決算相違なき事を証明します。

会計監査 須藤 正四郎

防災積立金 ¥942,795.00 (昭和62年6月27日現在高)

昭和62年度予算書

昭和61年4月1日～昭和62年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	45	前年度より	総会費	130,000	会場費及茶菓子代
町会費	1,250,000		会議費	50,000	役員会々場費茶菓子代
補助金	150,000	(区より)	総務部	200,000	部会及研究等に
雑収入	100,000		渉外費	100,000	関係団体等
利息	200	銀行	備品費	60,000	維持・購入費
			事務費	80,000	
			通信・交通費	60,000	
			電気代	60,000	防犯灯維持費含む
			防火防災部	50,000	訓練費他
			防犯部	50,000	夜警等に
			交通部	70,000	安全運動費他
			衛生部	10,000	
			文化部	170,000	蓬萊町だより, 成人, 新入学祝
			婦人部	150,000	敬老費他
			青年部	200,000	部費
			慶弔費	30,000	
			消耗品費	30,000	
			予備金	245	
合計	1,500,245		合計	1,500,245	

町会員各位 殿

昭和62年6月27日

蓬萊町会